|  |
| --- |
| ２０１９年１月　　　　　　関西総合調査業協会会報　　　　　０３９号 |

***関調協会報***　　　　　　　　　一般社団法人**関西総合調査業協会**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大阪市北区西天満１-１０-１６

Tel 06-6313-4567　fax 06-6313-4566

**倫理綱領**

**一、会員は、調査業の社会的使命を自覚し、誠実な職務遂行によって社会に貢献すること。**

**二、会員は、全ての業務において法を順守し、社会常識を逸脱するような行為をしないこと。**

三、会員は、契約を信義に基づく誓約とみなし、矜持をもって調査に当たること。

**四、会員は、人格を磨き、能力を高め、顧客満足の実を挙げるよう努めること。**

**五、会員は、人びとの名誉、権利を尊重し、部落差別調査の廃絶に努めること。**

**六、会員は、業務上知り得た情報並びに機密の秘匿、保持に努めること。**

**七、会員は、相互に協調し、連帯感有る活動を通じて業界の発展に努めること。**

**第25回理事会（**平成30年6月7日）

議　案

1. 総会について（平成２9年度決算及び平成30年度予算案の審議）

平成29年度の事業報告及び収支決算について理事会に諮ったところ、理事全員の賛成により異議無く承認された。

引き続き、平成30年度事業計画及び収支予算案を理事会に諮ったところ、理事全員の賛成により異議無く承認された。

1. その他理事定義事項について

会長は、平成３０年５月１５日全国調査業協同組合、同月１６日NPO法人全国調査業協会連合会の総会の模様を報告した。その中で、NPO法人全国調査業協会連合会に北海道総合調査業協会が新たに団体加盟し、組織強化に結びついた旨の報告がなされた。

**第2６回理事会（**平成30年10月9日）

議　案

１、入会審査について

議長は、２社の入会申し込みがあった旨を説明し、２社の入会申し込み資料を配布し、審議に入った。

結果申し込みの２社については一旦保留とし、会長が２社の代表者と面談し、その結果を持ち帰り再度検討することとした。

２、行事予定と会報発行について

　　　議長は下期の行事予定を説明し、例年一月に発行している関調協会報の発行を如何にするかを提案した。

　　　話し合いの結果、例年通り協会報を発行することとなり、編集は松谷理事が担当。

各理事はそれぞれ記事を書くことを了承した。

**第2７回理事会（**平成30年11月2日）

議　案

１、入会審査について

議長は、前回の理事会で保留とした入会申し込みの２社について、再度の審査を理事会に提案した。

会長は入会申し込みの２社の代表者と面談した結果を説明し、入会審査に入った。

結果申し込みの２社の入会を全会一致で了承した。

**（新規入会者）**

**社名　　㈱アイヴィサービス大坂支社**

**所在地　大阪市北区東天満2-9-4　千代田ビル東館2Ｆ**

**代表　　山田　聡**

**社名　　㈱アイ・アイ・エスさくら幸子探偵事務所**

**所在地　大阪市北区西天満3-13-18島根ビルディング2Ｆ**

**代表　　山田　聡**

**第6回通常総会の概要**

開催日時　　平成30年6月7日　　1６時00分

開催場所　　大阪市北区西天満1-10-16　企業サービスビル６F

**審議経過と内容**

**第1号議案　平成29年度事業報告について**

　　議長は平成２9年度の事業報告の説明を事務局に求めた。

事務局は配布資料に基づき、平成２9年度の事業報告の説明を行った。

これを受けて議長は議場に質疑の有無を確認したところ、特に意見や質問は無く、賛成多数でこれを可決承認した。

**第2号議案　平成29年度収支決算報告について**

　　事務局は議長の求めに応じ、収支計算書を含む下記の資料に基づき詳細に説明を行った。

1. 平成29年度収支計算書
2. 同　　　 貸借対照表
3. 同　　　　財産目録

次いで議長は監事に決算書類に係る監査結果の報告を求めた。

監事、足立正輝は上記書類を綿密に監査したところ、いずれも正確かつ適切に処理されていた旨を報告した。

　　議長は収支報告書並びに決算関係の書類につき議場に承認を求め、賛成多数でこれを可決承認した。

**第3号議案　平成30年度事業計画案の承認について**

　　事務局は平成30年度事業計画案の説明を行った。

議長は質疑の有無を確かめたうえ、当該議案の賛否を議場に諮ったところ、特に質問や意見は無く、賛成多数でこれを可決承認した。

**第4号議案　平成30年度予算案の承認について**

　　事務局が予算案の各項目について説明を行なった後、議長は質問の有無を確かめたところ、特に質問や異議は無く、採決に入り賛成多数でこれを可決承認した。

**第5号議案　その他**

　　特に議案の提出はなかった。

***事務局便り***

**・教育研修会について**

　開催日時　　平成３１年３月１３日（水）

　午後１時３０分（受付開始）

開催場所　　東京都（詳細は未定）

全調協と共催する教育研修会は、今年は東京で開催する事が上記日時で決定しているが、詳細は未定。

東京の会員がメインで行うことと成っており、詳細が決まり次第、会員の皆様方にはお知らせ致します。

遅くなって申し訳ありませんが、暫くお待ち下さいませ。

 **平成29年中における探偵業の概況**

 １ 探偵業の届出状況

・平成29年末　/　届出業者数、5,738業者（前年比増47業者）

・業法の法律違反の検挙状況の推移（Ｈ27年～29年）

　無届営業検挙件数　　　　２７年 0　　　２８年　3　　２９年　0

重要事項説明書虚偽等　　同　　 1　　　　同　　0　　　同　　0

従業者名簿不整備・虚偽　同　　 0　　　　同　　1　　 同　　0

指示処分違反　　　　　　同　　 0　　　　同　　0　　 同　　0　その他　　　　　　　　　同　　 4　　　　同　　1　　 同　　5

行政処分（廃止命令）　 ２７年　3　　２８年　　0　　２９年　1

同　　（停止命令）　 同　 　6　　　 同　 4　　　同　　1

同　　（指示命令）　　同　 35　　　 同　　53　　 同　 41

**新　春　放　談**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会長　松谷　廣信

新年あけましておめでとうございます。

皆様にとりまして今年一年が幸多い素晴らしい年になりますようお祈り致します。

今年は私の当たり年、「亥年」です。還暦で折り返し、早や４８歳を迎えようとする働き盛りです。ところが周囲の理解は乏しく、「そろそろ終活を・・」などと忠告してくれる奇特な御仁が多く居ます。気持ちはありがたいのですが、本人は全くその気がなく、遠足を楽しみとする子どもの如く、夜中の３時頃には目を覚まし、そわそわとする今日この頃です。こんな若輩者ですが、今年一年変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

昨年最後の理事会の席で、「新年早々に関調協会報を発行するので、よろしく」とのお願いをしたところ、ＡＩが当日の話題になっていたこともあって、「ＡＩ関連の記事を・・」という話がでました。ところがスマホもまともに扱えない小生に、近未来のＡＩを語れなど、全く無理な話です。ただ、社会そのものがアナログからデジタルに変化し、ＡＩは学習機能を持ち、単なる知識やデータの集積にとどまらず、自ら学習し判断するまでに進化し、考えるだに恐ろしい状況になって来ているようです。

我が業界においても、デジタル化は勿論、ＡＩの進歩に伴い、張り込みや尾行調査などでは、各社が独自の開発に努めており、ただ調査員の技術や能力に頼るアナログ時代から、ＡＩを組み込んだ機材を屈指したデジタル化、ＡＩ化に大きく舵が切られている様です。ただ、各種機材は調査の主役にしてはならず、あくまでも補助的立場で使うべきでしょう。

昨年の会報で、中国の社会信用システムについて触れ、アリババ系列の「芝麻信用」が、6億人を超える信用スコアを構築し、國もそのシステムを応援し、実際に広く利用されている事に触れましたが、中国の監視システムは急拡大しており、それが犯罪捜査に大活躍している様です。日本もご多聞にもれず、監視カメラは各所に見られ、また、マイナンバーの導入などもあって、あらゆる面で監視システムが目覚しく進んでいます。

安全、安心な社会構築と監視システムは今や切っても切れない関係にあり、今後急速に進化していくと思われますが、その間の中で、個人情報の問題が大きくクローズアップされてきています。ただこの個人情報は、社会生活を営むうえで非常に有用なものであり、個人情報保護法の冒頭（目的）でも、「個人情報の適正かつ効果的な活用が 新たな産業の創出並びに活力ある経済社会及び豊かな国民生活の実現に資するものであることその他の個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護することを目的とする。」とあります。

この様に、個人情報の適正な活用が産業の創出や活力ある経済社会及び豊かな国民生活の実現に資するものである、とあるように、國、公共機関、民間に関わらず、個人情報の収集、データー化は膨大なもので、そのセキュリティが問われるのは勿論、集積された情報の管理は厳重になされなければ成らないのは当然のことであり、その為の法律が個人情報保護法である。ところが、個人情報のデーター化などとは全く関係ない主婦層など一般人の間でも、「それは個人情報ですので云えません」と云うのが当たり前で、私ども調査会社の者が、個人のこと尋ねると、「それは個人情報ですから・・・」となる。所謂、個人情報を口外することは悪と捉えられており、それが広く浸透している。ところが、個人情報の取得、提出を保護法の範疇でしか行えないのは、個人情報をデータ化し、それを業務のように供する個人情報取り扱い業者であって、国民全てに課されたものでは無いにも関わらず、個人間でも個人のことを尋ねると頭から拒否されてしまう。

中国ほどでは無いにしても、国や自治体は個人情報を一手に握り、監視システムを構築しているが、市民間では個人情報がシャットアウトされ、徐々に匿名社会化が進み、コミュニティーの希薄化が進み、昭和人間にとっては非常に住み難い世の中になっている。ところがＳＮＳ市場では、膨大な個人情報が飛び交い、しかも、本人承諾など全く関係なく無限大に拡散して行き、規制の網は殆ど利かない。尚、その情報は一方通行の野放し状態で、検証されたものでは無い。同様に、アナログ市場でも、個人情報は一方通行で、提出される個人情報を検証するシステムが、個人情報保護を盾にシャットアウトされており、個人経歴などは言いたい放題、書きたい放題になっている。

詐欺師の基本は、身分秘匿、経歴詐称から始まるが、今の個人情報保護の流れからすると、成りすましなど極々簡単にできてしまう。

個人情報保護のながれに供応して個人の権利利益の主張が非常に高まっており、義務は遂行せず権利だけを主張する嫌な世の中になってきているが、この背景には今の個人情報保護の流れがあるように思うのは私だけでしょうか・・。

今年もこんな疑問を提起しながら、明るく前向きに活き活きと勇ましく頑張ろうと思っています。協会員の皆様には変わらぬご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。

**ＡＩと第六感**

**（株）初恋の人探します社　竜田充子**

　新年おめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

　今年の干支は「己亥（つちのとい）」。「己亥」は「現在の状態を維持し、守りの状態に徹した方が良い年」という意味とか。まったく新しいことに手を出すのではなく、これまで培ってきたことを大切に、次の一歩を踏み出すための地固めをして過ごす年だとのことです。

しかし、ＡＩ元年と言われた２０１７年から昨年にかけて、ＡＩについて頻繁に語られるようになり、ＡＩを巡って今年はますます新しい動きが加速されていきそうです。

社会を確実に変えると言われている人工知能「ＡＩ」。２０４５年にはＡＩが人間の知能を越えると言われています。

人間と同じように、時には人間以上に働き、仕事に人工知能を導入することは既に避けられないと言われ、人間の仕事を奪うのではないかと心配されています。

例えば、製造業。産業用ロボットは一定の動作しか動けなかったけれども、ＡＩはディープラーニングすることによって、人間が行うよりさらに器用に作業をこなすことができるようになります。

　例えば、接客業。同時に注文されてもＡＩはすべてを聞きとることが可能で、一時に複数の注文を受けることができます。

　例えば、アナウンサー。人間がニュースを読むよりも正確に情報を伝えることができます。

例えば、士業。あらゆる専門知識を習得し、事例をディープラーニングすることによって、あらゆる事態に対処することができるようになります。人間と見まがうＡＩが相談に乗ったり、カウンセリングを行ったりもします。

ならば、人間は働かなくてもよくなるのではないか？人類史上の転換点と言われる所以です。そういう意味では、「働く」ということの意味や内実が変わるのかもしれません。

以前は、いくらディープラーニングをしたＡＩでも人間の真似をして学習するのだから、人間以上はできないのではないかと言われていました。

しかし、研究が進むと、ＡＩは人間の脳波を学習し、その脳波を組み立てて人間にとって心地いいものや逆に不快なものを作り出すことができるようになったと言われています。

人間の脳の活動が分かるので、人間の能力を最大限に引き出すことができ、創造力を高めアーティストの能力を十分に発揮させることも可能になります。「脳」だけが知能のモデルだということが崩れ去るのかもしれません。

それでは、「感覚」も学習するのでしょうか？

脳がどのように感覚を感知しているのかを学習し、感覚の経験を積んだとしても、「五感」はコンピュータより脳のほうが秀でているはずです。情報処理だけで人に共感する力がつき、人間の「認知」の仕組みを超えられるとは思いたくないのは私だけでしょうか？

先日発表されたサラリーマン川柳にこんな句がありました。

「ＡＩも　太刀打ちできぬ　妻の勘」

調査業に携わる者としては、やはりこうあってほしいものだと思います。ＡＩを超えるのが人間の第六感であると…。

**ＡＩ探偵**

探偵さんドットコム　横田　正人

　新年あけましておめでとうございます。
　皆様おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は何かとお世話になり、大変ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
　最近、テレビや新聞、雑誌などでもよく聞く「ＡＩ」という言葉。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術ということで「人口知能」と訳されて使われている。
　もう数年前から各分野に導入されていて、例えば、身近なところではスマートフォンの音声アシスタント、お掃除ロボット「ルンバ」、グーグルなどの検索エンジン最適化など様々な分野で導入されて、銀行などでもＡＩ化が進むと、人が行う仕事が減って、リストラの憂き目に遭うなんてことも聞かれる今日この頃です。
　さて、私たち探偵業界にこのＡＩが導入されると、今の仕事環境がどのように変化するのかなと思いを巡らせますと、そういう変化に自身がついていけるかなという不安と、仕事のどの部分にどのようなＡＩが入るのかな・・なんていう興味も湧いてきます。
　私が所属するいわゆる三部会では、まずは広告媒体を使っての調査依頼の募集ですが、現在においては大部分の探偵社がインターネット広告を媒体に使って、ＷＥＢサイトからの集客に注力していますが、もうすでに検索エンジンがＡＩを導入していますので、ある意味この分野はＡＩ化されつつあると言え、今後、さらにより依頼者と探偵社をマッチングさせる技術が進み、もしかすると今までの枠を越えるようなマッチング技術が進むのかもしれません。
　その後、調査を依頼したいお客様が、従来通りだと各探偵社に電話やメールなどで相談をするわけですが、この分野はもしかすると、将来的にはＡＩによるアシスタントの可能性があるのかな、なんて思っています。
　各探偵社によって、それまで受件した相談案件や調査事例を細分化してデータベース化すれば、ある程度の予測が立てられて、調査に係る日数やどれくらいの手間がかかるか等、大まかな予測が立てられて、大体の調査の全容がつかめ、調査依頼前に依頼者が持つ不安の解消にも役立つのではないかと思います。
　ただ、このセクションでは探偵社側の相談員と依頼者の信頼関係が大いに必要になるので、完全にＡＩ化するのは難しいのかもしれません。
　そして、実際の調査に移ることになりますが、これがどこまでＡＩ化できるのかは大変興味のあるところで、未来を描いた映画や漫画の世界に近いような、空想の世界が拡がります。
　例えば、素行調査の張込み。最近はＷｉ－Ｆｉを利用した小型カメラもネット通販等で安価で販売されていて、結構重宝することもありますが、将来は小型カメラやビデオカメラにＡＩを利用した顔認証ソフトが組み込まれたりして、いわゆる人着面割のアシスタントをしてもらえるかもしれませんので、若い女性の顔の特定が年々難しいと思っているベテラン探偵には朗報でしょう。
　また、自動運転技術や前述の顔認証ソフトを搭載した高性能カメラが当たり前になると、無人で張込み、オフィスでスマートフォンの画面でモニタリングして状況を確認できるような、今流行りのドローン操作のような感じで張込みができて、この分野の調査員が失業する時代が近い将来に訪れる可能性もあります。
　これからも対人の調査に係る業務に関しては、やはり人による調査が必要になるのは変わりはないでしょうけど、経営計画を立てたり、相談業務のアシスタント、人の管理等の分野は徐々にＡＩ化が進んで、今までに存在しなかった新しい分野の業務も増えることもあるかもしれません。
　私自身も最近はスマートフォンの操作にも手間取るようなことも多くなって、時代について行けるかなと思うこともしばしばなので、なるべく遅れを取らないようにと思う今日この頃です。

**株式会社ニッタン　夏原佳代**

謹んで新年のお喜び申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、心よりの感謝と共に本年も宜しくお願い致します。

調査業というものは人様のお悩みをお聞きする究極のサービス業で、難しい手法などは必要ないのかもしれません。どれだけ調査で結果を出したとしても、全ての問題が解決するというものではありません。調査結果もふまえて、いかにご依頼者の利益や心の着地点をお探しすることが調査会社としての力量を問われているとも考えます。

人生の一部に関わらせていただくことの多い調査業でどれだけの経験があったとしても、悩めるご依頼者のご相談にはマニュアルなどありません。仮に問題が起こった時にどう解決していくか、どう理解していただくかが必要なスキルであると思います。

様々な仕事がAIに奪われる時代が来たと言われ、製造現場における工業用のロボット、下町ロケット然りの農業ロボット、一般家庭だけではないビルや店舗のお掃除ロボットから24時間ニュースを読み続けるロボットアナウンサー、ホテルの客室係やバーテンダーロボットが現実に稼働し始めたようですが、我が業界はどのように進化していくのでしょうか？

ビッグデータの活用はもとより、自動運転の車両で対象車両をロックオン？ドローンで追跡？発覚しなければ楽ちんです…ドバイ警察ではドローンバイク導入決定とのことです。

ご依頼者からみれば現在でもGPSなど当たり前、盗聴や潜入捜査、ハッキングなど映画やテレビドラマでやっていることが本当の現場であり、情報とは簡単に得られるものと信じておられる方も少なくありません。実際にはそのような手法が可能であったとしても、法律や規制がある中でそれらに反さない限りの方法を考え、駆使した結果の報告であり、地道な作業を積み重ねたものばかりなのですが…。

昨年ベストセラーになったハラリの「サピエンス全史」「ホモ・デウス」にもAIの「知識」と人間の「意識」について書かれているようです。そして幸福とは何かまでも…。

この先AIが発展するに従い、人間は哲学的になり、教育面でも従来のような知識中心であったものからマインド（リーダーシップや奉仕の心、どんな夢を持ち、どんな人生を歩みたいのかなど）を重視したものに変化していくそうです。

私達のこれからもマインド、スキル、ナレッジの中で、特にマインドを大事にして、調査員が苦労して導き出した調査結果が、ご依頼者の問題解決の一役を担うことが出来て嬉しいと感じて奮闘して行きたいと思います。

やはり、ご依頼者から相談して良かった、依頼をしてよかった、こちらも役に立てて良かったというのがこの仕事のやりがいです。

そんな同じ志を持った人たちと変らぬお付き合いが出来ることに感謝し、本年もご愛顧賜りますようお願い申し上げます。